

～いよいよ一般選抜合格に向けて、最終段階です～

3年生は一般選抜の本番まで残り時間が少なくなってきました。中には焦っている人がいるかもしれませんが、まだまだできることは沢山ありますし、とにかくこの時期に「**自分で自分を教育する力**」、特に「**自学自習力**」を身につけて欲しいと思います。受験期に限ったことではないと考えていますが、「**自学自習力**」が高く、自分の頭で物事を考える癖が身につけている生徒はより高い目標を達成し、人間的にも成長していきますし、実際、多くの生徒が飛躍していく姿を見てきました。ただ、残念なことにこのコロナ禍の初期に3年生は休校を経験しましたが、その時期に全国的に通塾率が上昇したというニュースが聞こえてきたのはとても残念でした。外出を最小限にするための休校なのに、目的を簡単にはき違えてしまう状況に対して、とても強い失望感を持ちました。もちろん、家庭ではスマホなどの誘惑が多く、自学自習の習慣が身につくのが難しいという判断で、塾で自学自習をするという行動には一定の理解はできます。また、通っている塾が生徒の自主的な学習をしっかりと見守っていくという姿勢で経営されているなら信頼もできますが、もし、塾が君たちの自学自習の機会を奪うような場所になっているとしたら、今回の入試改革で生徒の主体性を期待している以上、結果にリンクしないことは容易に理解できると思います。もちろん、**西高も面談を通して君たちの学習状況をしっかり把握し、適切なアドバイスをすること、自学自習力をつけるための場を保障すること、運動部の練習試合に相当する模擬試験や進路意識を高めるための進路関係行事をもっと充実させることがミッションだと考えていますが、受験生はもちろん、全ての西高生ができるだけ早期に自律した学習者になってくれることを期待しています。**

ところで、この時期になると、今年度の受験環境と志望動向がおおよそはっきりしてきます。そこで今回は各予備校、業者のデータなどを参考にしながら分析した結果を報告したいと思います。何かの参考になれば幸いです。ここでの内容の中には、共通テスト後に大きく変動する可能性もあることを念頭に読んでください。

1 2023年度入試に関するピックアップ

- ・18歳人口の減少に伴い、2021年度入試から受験生は減少していますが、今年度は今春からさらに2万人減少すると予想されています。その一方で入学者の維持に向けて、合格者数はさらに増加する見込みで、国公立大700名・私立大3000名規模で定員が増加するなど受験生にとってはチャンス到来です。最後まで妥協せず、自分が納得できる進路先に合格するまで受験を続けてください。なお、中国・四国地区では広島大50名、島根大40名、徳島大30名の定員増加となっています。
- ・今年度、他校の進路指導担当者、3学年の先生方と情報交換をすると、総合型・学校推薦型の話題になることが多くあり、ほとんどの高校で受験生が増加したという声を耳にしました。文部科学省は国立大学に対してできるだけ早い時期に募集定員の30%まで一般選抜以外の総合型・学校推薦型で入学させるように大学に要求していますが、実際は国公立大学のデータで学校推薦型が16%、総合型が6%、合計22%に留まっています。7帝大でも東北大学は入学定員の30%を総合型選抜で募集していますが、九州大学は10%に満たないなど一様ではありません。来年度も総合型・学校推薦型の募集人員拡大は継続するようですが、一方では、福岡教育大など総合型・学校推薦型の募集人員を削減し、それを一般選抜に戻すなど再シフトの動きも出てきています。理工系学部の女子枠の設置、教育・医学部以外の地元枠の新設なども発表されており、募集に変化が出てきていますので、3年生以外の生徒も現在の志望校や気になる大学の募集について、大学のホームページなどで早めにチェックしてみてください。

2 大学入学共通テストについて

- ・今年度の大学入学共通テストの出願についてですが、大学入試センターから発表された出願締切最終日の出願総数は479,348人で、昨年と同じ日と比較すると22,633人の減少となっています。そのうち、
(裏面につづく)

高等学校等卒業見込者(現役生)が 415,713 人(前年同环比:96%)と 17,778 人の減少となっています。全国模試でも、私大専願者を中心に昨年度入試で難化した共通テスト離れの動きがみられるようです。一方、高等学校等卒業生等(既卒生等)は 4,855 人減少して 63,635 人(同:93%)と、現役生以上に減少率の高さが目立ちます。受験人口が本格的に減少してきたことに加え、昨年度入試では私立大で合格者数が大幅に増加しており、競争緩和の実態が色濃く表れていたことが要因とみられます。それに加え、共通テスト難化の影響も受けて共通テストを回避する意図もあると思われます。ちなみに、今年度の共通テストの追試験は昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症等に罹患した志願者の受験機会を確保するため2週間後に設定されています。また、追試験の会場は今年度同様、全ての都道府県で設置される予定ですが、コロナ関連の詳細については12月に発表されることになっています。

3 模試における志望概況

① 国公立大学

- ・文系ではコロナ禍の影響を最も大きく受けている外国語と国際関係がそれぞれ昨年度より約1割の志望者減少と目立っています。他の文系の系統は人文、経済、経営いずれも減少が続いていますが、減少率は昨年度よりは小さくなっています。
- ・理系では理学部、工学部ともにほぼ昨年度並で、昨年度減少の反動はあまり見られていませんが、工学部では情報系の学科の人气が他の学科を圧倒しています。次いで堅調な人气が継続している建築系が続いていますが、逆に電気、機械系の不人气が長期化しています。農学部は模試ごとに動向がややばらついていますが大きな変化は今のところなさそうです。進路意識の高い生徒が最近、話題の多い環境関係のニュースを見て工学部から農学部志望変更したという話を他校の先生から聞きましたが、このように、学部学科の内容を研究し、社会の動きをしっかりと意識しながら受験校を決定していくことはとても大切な観点だと思います。自分自身や社会としっかり向き合う作業を十分に進めていく中で、自分にとって魅力的な進路先を見つけて欲しいと思います。
- ・メディカル系では薬学部の増加が目立っています。コロナ禍でワクチンや治療薬の開発などで注目を集めた影響が顕著に出ていると考えられます。また、医学部の人気も堅調のようですが、看護などの医療系は減少傾向が継続しているように見えます。薬学部や医学部では面接や志望理由書を入試で課す募集単位が年々、増えてきていますが、これらは、入学してどんな薬学や医療がしたいのかを受験生に厳しく問いかけているのだと受け止めてください。時流に乗ってとか、周囲に進められたからという理由で薬学部や医学部を志望すると受験学力が高くても面接などで不合格になるので注意してください。
- ・文理いずれから志望者がいる系統では、スポーツ・健康、芸術、総合科学、生活科学が微増となっています。芸術は映像関係、総合科学は教育内容にデータサイエンスが含まれることで、増加傾向が見られますが、教員養成・教育は減少傾向が続いています。

② 私立大学

- ・文系では、国公立大学と同様に厳しい経済状況から法学部がやや増加となっています。景気が悪い時は法学部が、景気が良くなると経済系が人気になるサイクルはここ30年、ずっと続いています。また、国立大学とコロナ禍の影響を最も大きく受けている外国語は大幅減少となっています。外国語大学は厳しい募集となっていますが、留学に行く学生も増えてきているので志望を考えている生徒は前向きに志望を貫いてください。
- ・理系は、理学部と工学部はほぼ前年度並で堅調な志望動向ですが、農学部は前年度の反動でやや増加しています。私立大は農学部を設置している大学が少ないので志望者は注意してください。
- ・メディカル系では、薬学部はやや増加していますが、医学部医学科は減少と国公立大学とは動向が異なっています。医学部医学科は都市部での設置大学が多いことから地方在住の受験生が受けにくいことや経済状況の悪化により医学部の高すぎる学費が家計を圧迫することが影響していると思われます。
- ・文理いずれから志望者がいる系統では、総合科学やデータサイエンスが増加傾向です。

以上、今回は全体の状況までを報告します。各大学の個別状況について難関大学と近隣大学を中心に来月号で報告したいと思いますが、受験生は最後まで全力で目標に向かって邁進してください！

(文責・松村)